

伝道者の書 5章10～6章12節

- 5:10 金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた空しい。
- 5:11 財産が増えると、寄食者も増える。持ち主にとって何の成功だろう。
それを目で眺めているだけだ。
- 5:12 働く者は少し食べても多く食べても、心地よく眠る。富む者は満腹しても、安眠を妨げられる。
- 5:13 私は日の下に、痛ましいわざわいがあるのを見た。所有者に守られていた富が、
その所有者自身に害を加えることだ。
- 5:14 その富は不運な出来事で失われ、息子が生まれても、その者の手もとには何もない。
- 5:15 母の胎から出て来たときのように、裸で、来たときの姿で戻って行く。自分の労苦によって得る、
自分の自由にするのできるものを、何一つ持って行くことはない。
- 5:16 これも痛ましいわざわいだ。出て来たときと全く同じように去って行く。
風のために労苦して何の益になるだろうか。
- 5:17 しかも、人は一生、闇の中で食事をする。多くの苛立ち、病気、そして激しい怒り。
- 5:18 見よ。私が良いと見たこと、好ましいこととは、こうだ。神がその人に与えたいのちの日数の間、
日の下で骨折るすべての労苦にあって、良き物を楽しみ、食べたり飲んだりすることだ。
これが人の受ける分なのだ。
- 5:19 実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて
自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。
- 5:20 こういう人は、自分の生涯のことをあれこれ思い返さない。
神が彼の心を喜びで満たされるからだ。
- 6:1 私が日の下で見た悪しきことがある。それは人の上に重くのしかかる。
- 6:2 神が富と財と誉れを与え、望むもので何一つ欠けることがない人がいる。しかし神は、この人が
それを楽しむことを許さず、見ず知らずの人がそれを楽しむようにされる。
これは空しいこと、それは悪しき病だ。
- 6:3 もし人が百人の子どもを持ち、多くの年月を生き、彼の年が多くなっても、彼が良き物に満足す
ることなく、墓にも葬られなかったなら、私は言う。彼よりも死産の子のほうがまだと。
- 6:4 その子は空しさの中に生まれて来て、闇の中に去って行き、その名は闇におおわれ、
- 6:5 日の光も見ず、何も知らない。しかし、この子のほうが彼よりは安らかだ。
- 6:6 彼が千年の倍も生きても、幸せな目にあわなければ、両者とも同じ所に行くではないか。
- 6:7 人の労苦はみな、自分の口のためである。しかし、その食欲は決して満たされない。
- 6:8 知恵のある者は、愚かな者より何がまさっているだろう。人の前でどう生きるかを知っている貧
しい人も、何がまさっているだろうか。
- 6:9 目が見ることは、欲望のひとり歩きにまざる。これもまた空しく、風を追うようなものだ。
- 6:10 存在するようになったものは、すでにその名がつけられ、それが人間であることも知られている。
その人は、自分より力のある者と言い争うことはできない。
- 6:11 多く語れば、それだけ空しさを増す。それは、人にとって何の益になるだろうか。
- 6:12 だれが知るだろうか。影のように過ごす、空しい人生において、何が人のために良いことなの
かを。だれが人に告げることができるだろうか。その人の後に、日の下で何が起こるかを。

失われた幸福への鍵

伝道者の書5:10~6:12

2019/11/17 NCA

I. 金銭について(5章)

1. 言及の多さ

「天国」や「地獄」よりもはるかに多い。

2. 富の落とし穴

(1) 満足することがない(10節)

ルカ 9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がきましょう。



「吾、唯、足るを知る」京都龍安寺

(2) 安眠できない(12節) ジョン・D・ロックフェラー

(3) 所有者に害を加える(13節) 佐野良夫兄

(4) 瞬時に失われる(14節) リーマンショック、アルゼンチン通貨危機(2001)

(5) 苛立ち、病気、激しい怒り(17節)

3. 日常生活の幸せ

(1) 労苦とそれにふさわしい報い(19節)

(2) 良きものを楽しむ(18節)

(3) 人生を神にゆだねる(20節)



J. D. ロックフェ

4. 聖書の教え

「私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることできません。衣食があれば、それで満足すべきです。」 I テモテ 6:6
「自分の宝は、天にたくわえなさい。」 マタイ 6:20



II. 自分の幸福を求める落とし穴(6章)

1. 富と財と誉れ 他人の手に渡る(2節)

2. 長寿と百人の子ども 不満、葬儀もしてもらえない(3節)

死産の子の方がまし (生まれた価値がない)
千年の倍を生きても、両者に差はない

3. 食べても満足がなく、欲しがっても手に入らない(7, 9節)

III. 幸福への鍵(6章)

1. 人はそれを知らない(12節)

2. 人は神に造られた。神と言い争うのではなく、神のみこころを受け入れる

ことが幸福への鍵(10節)

「すべてはもう決まっている。

人がそれぞれどのような人になるかは、ずっと前から知られている。

だから自分の運命について神と議論しても始まらない。」 (New Living Translation) 裏面参照

3. 羊飼いなるイエス・キリスト

イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのようにあったので、イエスは彼らを深くあわれみ、❖多くのことを教え始められた。(マルコ 6:34)



❖「腸(はらわた)のちぎれる想いに駆られた」(佐藤研訳)

(資料)

ウィリアム・マクドナルド 『この日を主とともに』 (One Day at a Time)より

「神の恵みによって、私は今の私になりました。」(コリント人への手紙第一15章10節)

人が自らに課す苦悩の一つは、神がまったく意図しておられないにもかかわらず、自分が他の誰かのようになろうと努力することです。人は皆、他に例のない神の作品です。ある人が言ったように、「神が私たちをお造りになるとき、型紙を使うことはなさらなかった」のです。私たちがその事実を変更することを、神は望んではおられません。

マクスウェル・マルツ(※アメリカの行動心理学者)は、こう書いています。「あなたという人格は、他のいかなる人の人格とも競合しない。地上のどこを捜しても、また、あなたと同じような立場の人の中にさえ、あなたのような人は他に一人もいないからである。あなたは、他に類のない存在である。あなたは、他のどの人にも似てはいないし、似ることもできない。あなたは、もともと他のいかなる人にも似るように造られてはいないし、他のいかなる人もあなたと似るように造られてはいない。神は、標準的な人間を造っておいて、『これでよし』とラベルを貼るようなことはなさらなかった。神は、一人ひとりの人間を個人として、また、他に類のない存在として造られたのである。それは、ちょうど神が一つひとつの雪の結晶を、すべて異なったものに作られたのと同じである」と。

私たちの一人ひとり、例外なく神の知恵と愛によって生み出されたものです。今の私たちを造るにあたって、神は間違いなどしておられません。私たちの容姿、知能、そして、才能は、神が最良のものとして私たちに備えてくださったものを表しています。それは、無限の知識と無限の愛を持つ方にして初めてできたことなのです。

したがって、私たちが誰か他の人のようであったらよかったのにと願うことは、神への侮辱です。それは、神がしくじりをした、あるいは、私たちの益になったはずのものを与えてくださらなかった、ということを示唆するからです。

他の人のようになりたいと切望するのは、空しいことです。神がどのように私たちをお造りになったか、また、何を与えてくださったかということは、今さら変更ができないことだからです。もちろん、他の人の美德を模範とすることは可能です。しかし、ここで今、問題にしているのは、神の作品として、私たちはどのようなものとして造られたか、ということなのです。神が、私たちの生涯のために作られた神のデザインに満足することなく、人生を歩んでいくとするなら、私たちは劣等感で身動きが取れなくなることでしょう。しかし、これは他の人と比べて劣っているという問題ではないのです。私たちは、劣っているのではなく、個性的で、他に類のない存在であるだけなのです。

他の人のようになろうとする試みは、失敗が運命づけられています。それは、小指が心臓の働きをしようとするのと同様に、無理なことだからです。それは、神が意図されたことではありません。したがって、どうやってもうまくいくはずはないのです。幸いな態度とは、パウロと共にこう言うことです。「神の恵みによって、私は今の私になりました」(Ⅰコリント15・10)と。

神の独特な設計によって、自分が造られたことを私たちは喜ぶべきであり、私たち自身を、そして、私たちが持っているものを最大限に用いて神の栄光を表そうと、心を決めるべきなのです。私たちには、どう頑張ってもできないことがいろいろあることでしょう。しかし、他の人にはできないことでも、私たちにできることがあるのです。